

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0747
施設名	聖光三ツ藤保育園
施設所在地	武蔵村山市三ツ藤3-36-10
法人名	社会福祉法人聖光会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

星・光

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

遠足で見たプラネタリウムに興味を持ち、オリジナルの宇宙作りがしたいという声が多く聞かれるようになったため

2. 活動スケジュール

活動期間(令和6年10月～令和7年1月)

- ・つくりたい宇宙のイメージを絵に描き具体的に何が必要か考える
- ・イメージしたものを形にする
- ・クラスで見せ合う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・段ボールの板・紙粘土・アルミホイル・カラーセロハン・画用紙・ライト
- ・星を映し出す衝立・星の図鑑

子どもたち自身が考えながら材料を選べるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・自分で考えたオリジナルの星や図鑑を見て興味を持った星を画用紙に書き出す
- ・紙粘土やアルミホイルを使って形を作り、色を付ける
- ・完成したものに光を当てて、クラス内で見せあう

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

●星のイメージを形にする

「絵じゃなくて立体にしたい」「可愛く色を塗りたい」「キラキラ光らせたい」

・プラネタリウムで見た星だけでなく自分で考えた星を作りたいという声が聞かれ、賛同していった。そうすることでイメージが広がり、多くのアイディアが浮かんできた。また途中経過を報告したりアイディアを共有したりすることで、子ども達同士が互いを認め合う姿が見られた。

●実際に光らせてみる

「もっとプラネタリウムみたいにしたい」「部屋を暗くしたい」

・実際に光らせてみるとイメージしていた物とは違い、もっとこうしたいという意見が出た。よりイメージに近づける為に、話し合いを繰り返していき、時にはアドバイスをしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

遠足で行ったプラネタリウムをきっかけに、星に興味を持つ姿が多く見られた。イメージを絵で表現することから始めたため、形にするまでがスムーズに行うことが出来た。子ども達の意見を尊重しながら話し合いを進めていくことで、成功体験だけでなく失敗の中から学ぶ機会を作ることが出来たと感じる。また様々な素材を用意することで、イメージに合った物を選択し工夫する姿が見られた。素材によっては扱いにくさを感じている姿も見られたが、子ども達の発想を大切にすることを心掛けていった。今回は1人で作る子もいればグループで作る子もいたため、同じ興味を持つ子が協力し1つの大きなものをつくる機会も取り入れていきたい。